

第4回『千曲川堤防調査委員会』

開催日時: 令和2年7月7日(火)10:00~11:30

開催場所: TV会議で開催(5会場中継)

北陸地方整備局、千曲川河川事務所、

金沢大学、国土技術政策総合研究所、土木研究所

資料: 議事次第、配席図、資料-A

1. 委員会の議事概要

- 堤防決壊の原因は、一般的に越水、浸透、侵食、あるいはそれらの複合などが考えられるが、本委員会では、決壊した左岸 57.5k(長野市穂保地先)において、痕跡水位の状況や落堀・洗掘の状況、決壊地点の地質構成、堤内地の堆積物調査、浸透流解析、決壊地点及び近傍の侵食状況などの調査を行い、その結果、越水が決壊の主要因になったと推定されるとの結論を得た。
- また、穂保地先の堤防決壊箇所の堤防開削調査により、上流側断面、下流側断面の調査を行い、それによる浸透流解析を行った結果、堤防の浸透に対する安全性が確保されていたとの結論を得たことも報告書に記載する。
- 越水に対する堤防強化対策を実施する場合に配慮すべき事項を「今後の堤防強化対策にあたっての留意点(案)」として報告書に記載する。
- 立ヶ花狭窄部から村山橋までの区間において、今後、検討する堤防強化対策とその構造等について、本委員会で引き続き助言等を行う。
- 千曲川堤防調査委員会報告書は、第3回までに検討した左岸 57.5k(長野市穂保地先)、左岸 104k(上田市諏訪形地先)の被災概要、被災メカニズムの分析と本復旧工法などについてとりまとめ、本日の委員からの指摘を踏まえた修正を加えたうえで、できるだけ早く公表する。

2. 委員会の様子

【新潟会場】



【長野会場】



【各会場を結んで】



3. 会見の様子



(新潟会場の様子)



(長野会場の様子)